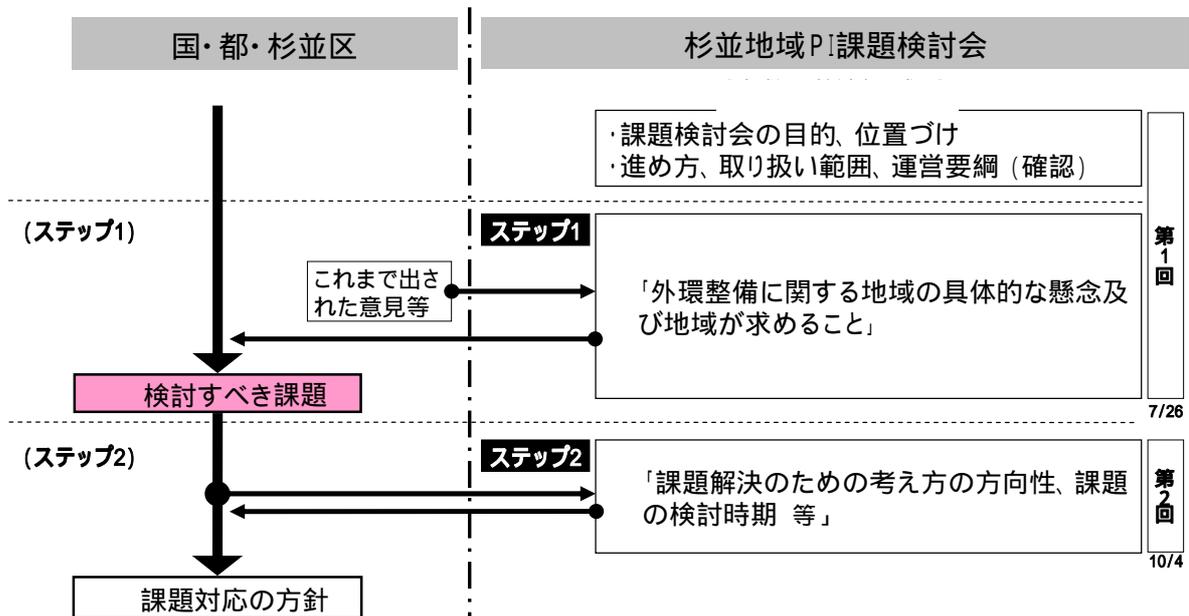


ステップ 1-2

検討すべき課題（案）

- ・「外環整備に関する地域の具体的な懸念及び地域が求めること」の意見の趣旨を踏まえて、主催者が外環事業やまちづくりを検討する上でそれぞれの立場から現時点で認識した課題を交通、環境などのテーマで分類しまとめたものです。



杉並地域 PI 課題検討会
検討すべき課題(案)

【本資料について】

- ・この『検討すべき課題』(案)は、杉並地域 PI 課題検討会において 1 回目の成果としてとりまとめられた『外環整備に関する地域の具体的な懸念及び地域が求めること』を受けて、主催者が整理したものです。
- ・課題検討会で頂いた懸念や期待について、主催者である国・都・区が、外環事業やまちづくりを検討する上でそれぞれの立場から現時点で認識した内容を示しています。
- ・また、課題検討会の 2 回目における議論の基礎資料となります。
- ・なお、本資料は、今後の意見を踏まえて更新していきます。

平成 20 年 9 月 24 日

杉並地域 PI 課題検討会 主催者
(国土交通省・東京都・杉並区)

杉並地域PI 課題検討会

『検討すべき課題』(案) 目次

1 . 交通	1
(1) 地区交通	
(2) 幹線交通	
2 . 環境	2
(1) 大気質	
(2) 騒音・振動	
(3) 地下水	
(4) 動物・植物・生態系	
(5) 景観	
(6) 環境一般	
3 . まちづくり	5
(1) まちづくり全般	
(2) 地域分断	
4 . 安全・安心	6
(1) 交通安全・治安	
(2) 災害・事故時の対応	
5 . 工事中	7
(1) 工事中の交通への影響	
(2) 工事中の環境への影響	
(3) 工事中の安全性	
6 . 計画検討の進め方	8
(1) 計画検討全般	
(2) 意見反映	
(3) 情報の提供	
7 . その他	10
地上部街路(外環ノ2)	

1. 交通

(1) 地区交通

【検討すべき課題】

- ・生活道路を通り抜ける交通が増え、住宅街での渋滞の発生や安全性の低下、住環境の悪化が生じるのではないかと懸念

関連する意見例

- ・青梅街道インターチェンジができて、交通量が増加し地域の生活道への自動車の流入が多くなることを懸念する。(C)
- ・インターチェンジができることで、生活道路への車輛侵入が増大し、その結果、渋滞が起こるのではないかと。(D)
- ・東名方面へは東八道路インターチェンジ利用となるため、東八道路やそこへ抜ける周辺道路への影響がどうなるのか心配。渋滞は起こらないと聞いているが、本当なのか懸念がある。(D)

(2) 幹線交通

【検討すべき課題】

- ・青梅街道や青梅街道インターチェンジ周辺道路の交通量が増加することによる渋滞が発生するのではないかと懸念
- ・環状8号線などの混雑が改善することへの期待

関連する意見例

- ・青梅街道インターチェンジの建設により、青梅街道(と外環道の)交差点およびその周辺の一般道に流入交通がどのような影響を及ぼすかが心配。(A)
- ・青梅街道インターチェンジの整備に伴い、青梅街道や周辺道路が渋滞する事を懸念する。(B)
- ・インターチェンジを利用する交通が増えるため、周辺の道路が渋滞するのではないかと心配である。(C)
- ・青梅街道インターチェンジの周辺で抜道に使われている千川通りや早稲田通りなどは、杉並区、練馬区、武蔵野市など複数の区市にわたり、効果的な対策が取れないのではないかと心配している。(H)
- ・青梅街道インターチェンジを建設することで、インター周辺の交通量がほとんど増えないという予測は、現在の朝晩の交通渋滞を見ても実感に反しており、交通利便性の悪化が懸念される。(A)
- ・外環を整備して、環状8号線などの渋滞が緩和し、都心からの通過交通が排除されることに期待する。(C)

2. 環境

(1) 大気質

【検討すべき課題】

- ・青梅街道インターチェンジ周辺での交通量の増加による大気質への影響についての懸念
- ・周辺に教育施設があり、換気所や青梅街道インターチェンジなどからの排気ガスによる大気質への影響についての懸念
- ・換気塔の高さや性能についての懸念

関連する意見例

- ・青梅街道と早稲田通りの交差点は、変則交差点なのでわたるのが大変な場所だが、現状でも排気ガスの影響が大きい。青梅街道インターチェンジの設置で通過交通が増加し、さらに大気質が悪化することを懸念する。(B)
- ・青梅街道インターチェンジが出来ると交通量が増えて、地域への車両の流入も増え、大気質や騒音への影響が懸念される。(C)
- ・二酸化窒素の着地点濃度分布図によると、換気所からの排気の影響は杉並側に大きい。その影響を懸念する。(B)
- ・換気所の排出 NOx の局地的高濃度化を懸念する。(B)
- ・外環が整備されたら換気所からの排気が現在とどう変化するのが心配だ。(C)
- ・道路ができることで目に見えないものを失っている。環状7号線ができて運動会ができなくなった小学校もあり、喘息も増えた。大気汚染による健康被害が心配。(D)
- ・桃井第四小学校など換気所周辺の大気汚染が懸念される。(E)
- ・換気所の効果が不明。本当に地域への影響はないのか疑問である。市民が理解し納得できる説明がほしい。(D)
- ・大気中に拡散される排気ガス、粉じんを考慮すると換気所の高さが20mで十分なのか懸念する。(B)
- ・換気所の高さは20mで問題ないのか。(D)

(2) 騒音・振動

【検討すべき課題】

- ・青梅街道インターチェンジ周辺地域での騒音への懸念

関連する意見例

- ・外環の工事中と完成後の青梅街道インターチェンジ部やその周辺道路の騒音が懸念される。(A)
- ・青梅街道インターチェンジができて青梅街道交差点の渋滞がさらに増え、排気ガスや騒音の影響が増えるのではないかと心配だ。(C)

(3) 地下水

【検討すべき課題】

- ・善福寺池や善福寺川が涸れてしまうのではないかと懸念
- ・善福寺池をはじめ、湧水や地下水などへの影響に関する調査が不足しているのではないかと懸念
- ・生活用水として利用している地下水への影響についての懸念
- ・地下構造物の影響により地下水が遮断されるのではないかと懸念
- ・地下水の変化による地盤沈下が起こるのではないかと懸念

関連する意見例

- ・青梅街道インターチェンジの設置により、歴史ある遅野井の滝や善福寺川が涸れてしまう事を懸念する。(B)
- ・外環本線の工事で水脈が涸れ、善福寺池の湧水や池が涸れるのではないかと懸念する。(C)
- ・善福寺川の地下水・湧水に関して、調査ポイントが少ないため実際の影響が予測と異なり、水資源の涸渇などの問題の発生が懸念される。(A)
- ・ボーリング調査の結果が信憑性に欠ける。はっきりした具体的な根拠を示しながらもっとわかりやすく説明して欲しい。(A)
- ・生活に使用されている井戸の地下水への影響や地盤沈下(地下水への細砂流出&工事の振動による影響)が心配である。(A)
- ・シールド工法でトンネルを掘削した後セグメントという部材で露出地盤を覆うことになっているが、セグメントという部材によって地下水が飲めない水にならないか、その影響が心配である。(F)
- ・青梅街道インターチェンジの設置や地下に高さ16mの壁を作ることにより、大雨や雪解けの際に外環より西側の水位が上昇し、それに伴う影響が生じる事を懸念する。(B)
- ・外環を地下化することで、地下水が遮断されるのではないかと心配である。(H)
- ・地下水の遮断により地下水位が変化し、地盤沈下等の問題が生じる事を懸念する。(B)
- ・地下トンネルは人口密集地を走ることになり、地下水渇枯による地盤沈下の危惧がある。(D)
- ・地下水脈(みずみち)の分断破壊が心配である。地盤沈下は本当に起こらないのか、地下40mは絶対に安全といえるのか、強い懸念がある。(D)
- ・地下水脈への影響が出て、地下水が涸れて地盤沈下につながるのではないかと心配である。(H)

(4) 動物・植物・生態系

【検討すべき課題】

- ・善福寺公園などにおける動植物などの生態系への影響についての懸念

関連する意見例

- ・緑豊かな善福寺地域を大事にしたい。高尾山のように木が枯れることを懸念。(F)
- ・外環整備にともなって、緑が無くなることに懸念を抱いている。(F)

(5) 景観

【検討すべき課題】

- ・青梅街道インターチェンジの整備により、地域の景観が損なわれるのではないかと懸念

関連する意見例

- ・青梅街道インターチェンジ開通により、商業施設などが周辺地域に多数入り込み、風致地区としての景観や環境が損なわれることが懸念される。(A)

(6) 環境一般

【検討すべき課題】

- ・環境に影響が生じた場合への対応についての懸念

関連する意見例

- ・外環開通後の実際の環境影響の実数値が、環境アセスの予測値を越えた場合の対処の方法等を事業主体が外環の事業化前に明らかにして住民・利害関係者に説明しておくべきである。(A)
- ・外環ができることによるCO₂、振動、騒音に対する対応は完全なのか、懸念がある。(D)
- ・将来、環境アセスの予測よりも悪い結果が出た場合、誰が責任を取るのか、責任を明確にしてほしい。(G)
- ・工事中及び供用開始後に計画時の各種予測(交通量・環境への影響など)と大きく異なる事態が発生した場合に、これに対応できる体制の事前整備を期待する。(B)

3. まちづくり

(1) まちづくり全般

【検討すべき課題】

- ・ 青梅街道インターチェンジの整備により、閑静な町並みを損なう商業施設が立地してしまうのではないかと懸念

関連する意見例

- ・ 郊外の良好な住宅地である予定地の住環境が、青梅街道インターチェンジを出入りする交通等による影響を受けることが心配。(A)
- ・ 青梅街道インターチェンジの設置により、この地域の閑静さが失われる事を懸念する。(B)
- ・ 青梅街道インターチェンジ開通により、商業施設などが周辺地域に多数入り込み、風致地区としての景観や環境が損なわれることが懸念される。大型小型を問わず、同地区へ入ってこようとする商業施設の許認可については規制を緩めないで欲しい。(A)

(2) 地域分断

【検討すべき課題】

- ・ 青梅街道インターチェンジの整備により地域コミュニティや地域交通が分断されるのではないかと懸念

関連する意見例

- ・ 青梅街道インターチェンジの設置による地域の分断を懸念する。(B)
- ・ 青梅街道インターチェンジの整備に伴い、地域交通が分断され、善福寺から上石神井など青梅街道を挟んだ南北での行き来に支障が出る事を懸念する。(B)

4 . 安全・安心

(1)交通安全・治安

【検討すべき課題】

- ・通学路や生活道路の交通量が増え、交通事故が増加するなど交通の安全性が低下するのではないかと懸念

関連する意見例

- ・青梅街道インターチェンジができて青梅街道交差点の渋滞がさらに増え、交通事故などの危険性が増えるのではないかと心配だ。(C)
- ・青梅街道インターチェンジが出来ると交通量が増えて、地域への車両の流入も増え、安全性が懸念される。(C)
- ・青梅街道インターチェンジ周辺の交通安全対策が心配である。例えば8m幅の善福寺公園通りは、今でも抜道に使用されており、ますます安全性の確保ができなくなるのではないかと心配である。(H)
- ・バス通りは交通量が多いため、小学生の多くが青梅街道を通学路としている。青梅街道インターチェンジの設置に伴う青梅街道拡幅により歩道に影響が出て、通学に支障をきたす事を懸念する。(B)
- ・インターチェンジ設置や幹線道路整備などによる交通量の増加から、子どもの交通事故が懸念される。(E)
- ・女子大通り・早稲田通りに挟まれた、東京女子大学付近の道路に、通過交通のためスピードを出した車が走っている。桃井第四小学校への通学路となっていることから、子どもの安全対策を考えて欲しい。(E)
- ・子どもが通う施設が多い地域であるため、都市計画のための工事や道路整備による交通量の変化などで、子どもの交通事故が起こることが懸念される。(E)

(2)災害・事故時の対応

【検討すべき課題】

- ・トンネル内での火災や地震など災害時の対応や避難方法等に関する懸念

関連する意見例

- ・交通事故や、事故後の二次災害、強いてはテロリズムが起こった時のことを想定しているのか。また、安全対策を考慮に入れているのか。災害や事故発生時の安全性が心配である。(G)
- ・大深度トンネル技術委員会が、大深度地下トンネルの災害時の安全性を保留したので、懸念が残る。(F)

5 . 工事中

(1) 工事中の交通への影響

【検討すべき課題】

- ・生活道路に工事車両が流入するのではないかと懸念
- ・工事期間中の周辺道路機能の確保についてへの懸念

関連する意見例

- ・東八道路インターチェンジの工事が始まる頃には、周辺道路がどのように整備され工事用車両はどこを流れるのか。地域内への車輛流入が心配。(D)
- ・工事車両がどう流れるのか、そのための道路整備はされるのか。生活道路への進入や渋滞など地域への影響が心配。(D)
- ・工事期間中、周辺住民の通勤や通学に関して道路封鎖、車線規制、渋滞によるバスの遅延など影響が及ぶことが心配。(A)

(2) 工事中の環境への影響

【検討すべき課題】

- ・工事に伴う騒音・振動、粉塵、排気ガス等による環境への影響についての懸念
- ・工事に伴う地下水への影響についての懸念
- ・工事に伴う地盤沈下についての懸念

関連する意見例

- ・工事車両の騒音・振動・粉じんなどの影響が心配だ。(C)
- ・工事中の大気汚染や車両や重機の騒音の影響が心配だ。(C)
- ・工事によって、善福寺池の水脈が変わることを懸念。木が枯れないか心配。(F)
- ・高尾山の圏央道の例などを見ると、生活に使用されている井戸の地下水への影響や地盤沈下(地下水への細砂流出 & 工事の振動による影響)が心配である。(A)

(3) 工事中の安全性

【検討すべき課題】

- ・工事中における通学路や生活道路の交通の安全性確保についての懸念

関連する意見例

- ・工事車両が地域の生活道路を通行して交通事故の危険性が増えるのではないかと心配だ。(C)
- ・子どもが通う施設が多い地域であるため、都市計画のための工事や道路整備による交通量の変化などで、子どもの交通事故が起こることが懸念される。(E)

6 . 計画検討の進め方

(1) 計画検討全般

【検討すべき課題】

- ・ 外環や青梅街道インターチェンジの整備効果が十分発揮されるのかとの懸念
- ・ 最新のデータ等を踏まえた交通量推計による計画となっているかとの懸念

関連する意見例

- ・ 青梅街道インターチェンジは大泉インターチェンジとの距離が近く設置の必要性を感じない。また東名高速自動車道方面に行けないハーフインターであり、やはり必要性を感じない。(B)
- ・ 青梅街道インターチェンジがハーフインターでは、東名方面には東八道路インターチェンジまで行かないと使えないので不便である。(D)
- ・ 青梅街道インターチェンジは、目白通りインターチェンジから距離が近く、設置する効果が不明。(H)
- ・ 国として、社会保障等のもっと優先すべき課題を重視した予算の使い道・公共事業のあり方を見直す中で、外環についても今後の事業の必要性や効果を再考すべき。(A)
- ・ 若年層の運転免許取得者が減っている。自動車保有台数並びに通行量も減少するので新しい道路をつくる緊急性は低くなっているはず。(G)
- ・ 外環本線開通により環状8号線の交通量の減少が予測され、ガソリン価格の高騰で既に主要道路の交通量が減っているという現状もある。これらの点をしっかり反映した適切な交通量を予測し、余計な道路を造らないよう努めるべき。(A)
- ・ 原油価格の高騰や温暖化といった社会経済情勢が外環計画に反映されずに40年前の計画がそのまま通されようとしているように思われ、無駄な整備や環境負荷への懸念がある。(A)
- ・ 将来交通量のデータベースは、平成11年の数値を基にしている。H11～H20年の間に交通量をはじめ、他のデータも変化しているはず。(G)

(2) 意見反映

【検討すべき課題】

- ・ 地域課題検討会での意見が計画に反映されないのではないかとの懸念
- ・ 今後も地域の住民の意見を聴き、具体的な検討を行うことへの期待

関連する意見例

- ・ 地域課題検討会で出された意見が、何に反映されるのかを明確に説明してほしい。何が決まっていて、これから何を決めるのか。(C)
- ・ 地域課題検討会は行政と住民が話し合う場ではなく、住民同士が話し合う形態となっており、結果が計画に反映されるのか不安がある。検討会の結果が計画に反映されるのかどうか知りたい。(C)
- ・ 今回出た意見を反映してほしい。そして、次のステップの策定にも関わらせてほしい。また、関わる方法を示してほしい。(G)

(3)情報の提供

【検討すべき課題】

・地域住民への十分な情報提供への期待

関連する意見例

- ・交通に関する全ての予測についてその根拠がわからないので、わかりやすく説明して欲しい。(A)
- ・凍結から40年近く経って、なぜ計画が動き出したのか疑問。地下化は地下水や地震の影響を考慮すると不安を感じる。なぜ凍結が解除された形となったのか、その理由を知りたい。(B)
- ・青梅街道インターチェンジやハーフインターについて、行政の広報紙などに関心の薄い人たちは理解が不足している。(B)
- ・大深度工事の進行について、その状況を定期的に(3ヶ月位ごと)に住民に周知する事を期待する。(B)
- ・東名以南に関しての情報提供がない。東名以南がいつ作られるか、また、東名以南ができる事による交通状況予測を知らせて欲しい。(B)
- ・「区長からの要望書」に対する「国・都からの回答」は事業化前に示してほしいし、その回答で安全性が示されることを望む。(D)
- ・環境アセスの予測評価は大丈夫だと言いつつ、具体的データは1回も出して貰っていないので懸念が残る。(F)
- ・外環開通後の青梅街道の将来交通量が、現在とほぼ同数で増加しないと予測されているが、その根拠を示して欲しい。(H)
- ・便利な東京として外環道(地下)はいつごろ完成して利用できるのか知りたい。(D)

7. その他

【地上部街路（外環ノ2）の取扱い】

- ・地上部街路については、必要性や話し合い、あり方、情報の提供に関する意見を、検討すべき課題として主催者が整理しました。
- ・また、地上部街路が整備された場合の交通や環境、まちづくりなどの懸念に関する意見を取りまとめました。
- ・今後、本検討会とは別に、必要性を検討するためのデータを示し、広く意見を聴きながら、必要性やあり方などについて検討を進めていきます。本検討会でいただいた意見については、今後の地上部街路の検討に引き継ぎます。

地上部街路（外環ノ2）

【検討すべき課題】

- ・外環ノ2の必要性について懸念
- ・外環ノ2の計画が住民と行政との十分な話し合いが無いまま進められてしまうことについての懸念
- ・環境にやさしい、地域の利便性向上につながる計画になることへの期待
- ・外環ノ2に関する地域住民への十分な情報提供への期待

(1) 必要性

関連する意見例

- ・高齢化社会の進行や若者の車離れなど、今後車が増えないと予想される中で、外環ノ2の必要性には疑問を感じる。(B)
- ・高架式の外環本線に合わせて計画されていた外環ノ2は、本線の大深度地下方式の採用に伴い地上部道路として残ることが理解できないので、外環ノ2の計画は白紙に戻すべきである。(A)
- ・外環本線と外環ノ2は一体的なものであるから、両者を合わせて検討しないと外環ノ2が地上に残ったまま勝手に事業が進んでしまう心配がある。両者を合わせて検討すれば地下方式の変更と同時に外環ノ2は廃止すべきことになる。(A)
- ・外環ノ2は本線の地下式への変更後もそのまま都市計画道路として残されており、これまでの手続き上の問題を感じるとともに計画がそのまま事業化されてしまう心配がある。外環ノ2の必要性についてはゼロから検討し直し、必要性があるのであれば事業者は根拠を住民へ明示すべきだ。(A)
- ・外環整備計画は、地上部の影響を最小限にするため地下化に変更されたのだから、地域分断や数千世帯の立ち退きなどマイナス面が大きい地上部街路計画(外環ノ2)は、現時点ではその必要性がない。(B)
- ・長年住み慣れた平穏な生活環境を脅かされることなく一生涯穏やかに暮らしていきたいので、外環本線も外環ノ2も事業化しないほしい。(A)
- ・外環ノ2を棚上げにして本線だけを議論の対象にして地域の課題を検討することはできない。外環ノ2によって地域が分断され、学区・コミュニティや生活利便性への悪影響があるので外環ノ2をつくらないほしい。(A)
- ・外環ノ2はまず計画の要否についてから議論すべきだと思う。個人的には外環ノ2は今さら不要だと思う。(C)

- ・外環ノ2は外環本線が地下なら必要ないと思う。まずは必要性の議論からするべきである。(D)
- ・外環ノ2は必要でない。(D)
- ・静かな環境を維持するために、大深度で外環は整備することになったので、外環の2は必要はなくなったのだから、外環の2の構想をゼロに戻して欲しい。(F)
- ・外環ノ2に反対。立ち退きをさせてまでやらなくてもいい。(F)
- ・外環ノ2はそもそも、誰が欲しがっているのかを示して欲しい。ニーズのありかを示して欲しい。(G)
- ・外環ノ2は地域密着のニーズに沿って、廃止も含めてこの場で議論したい。(G)
- ・外環ノ2は外環が地下化と都市計画決定した時点で必要性がなくなっているはず。外環を地下方式にしたという都市計画決定がなされた時点で、外環ノ2は白紙に戻すべきである。(G)
- ・外環ノ2が地域の防災などの視点で必要というのなら、外環とは違う計画としてきちんとその必要性から議論すべき。(G)

(2) 話し合い

関連する意見例

- ・外環ノ2についてきちんと話し合いをしたい。地域課題検討会で本線の話をしてだけで外環ノ2の計画が進められてしまうのではないかと心配だ。外環ノ2を検討会の対象としてほしい。(C)
- ・外環ノ2は、これとは別に機会をつくって議論をして欲しい。その2があるなら、大深度でやる意味はない。(F)
- ・外環ノ2は本線と一体のものであり、残したままであれば本線を地下化した意味がない。地上部での問題によって事業計画が凍結されたにもかかわらず外環ノ2が地上部の問題として残る懸念がある。このまま本線事業化を進めるべきでないとする武蔵野市と同一歩調をとりながら、まず外環ノ2の扱いははっきりさせてから本線事業化に向けての個々の問題について議論すべきである。(A)
- ・外環ノ2を棚上げにして本線だけを議論の対象にして地域の課題を検討することはできない。外環ノ2によって地域が分断され、学区・コミュニティや生活利便性への悪影響があるので外環ノ2をつくらないでほしい。(A)
- ・外環ノ2について、一緒にまたは先に論じてほしい。(F)
- ・外環と地上部外環ノ2と併せて議論していきたい。(G)
- ・外環本線が地下化しても外環ノ2が従来の計画通りでは、立ち退きなどの影響が地上部に及ぶことが心配である。外環本線と外環ノ2は合わせて議論をしたい。それぞれの担当が違うといっても、地域住民には関係のないことである。(H)
- ・外環ノ2について、しっかりと話しあう場を設置してほしい。進め方や考え方を示してほしい。(C)

(3) あり方

関連する意見例

- ・外環の地上部に関して、道路だけでなく、どのような取り扱いが適切か、より柔軟な検討をする事を期待する。(B)
- ・外環ノ2を整備するのであれば、路面電車(LRT)など、より環境にやさしいシステムによる街づくりを進める事を期待する。(B)
- ・外環ノ2を整備するのであれば、地域住民の便に供するものにして欲しい。(B)

(4) 情報の提供

関連する意見例

- ・外環ノ2を含め外環関連事業によって実際に立ち退き軒数がどれほど多くなるのか心配なので、説明して欲しい。(A)
- ・外環ノ2の道路幅は何mが本当に必要なのか。また、どれくらい車両が流れるのか。市民が理解し判断できる情報を示してほしい。(D)
- ・外環ノ2について、交通量予測の説明やデータを市民が理解し納得できるかたちで示して欲しい。(D)
- ・外環ノ2について、市民が理解し判断するためのデータを早く出すべき。パンフは2年前からできているのになぜデータは出てこないのか。(D)
- ・外環ノ2についてきちんとした説明を。(D)

- ・外環ノ2のコストを示して欲しい。(G)
- ・外環ノ2はなぜ40mもの幅を必要としているのかが分からないので、根拠を示して欲しい。40m幅は必要ない。(G)
- ・「外環地上部街路についての基本的な考え方」(H17年)の3つの考え方の選択肢は平等に考えられているのか知りたい。特に「代替機能を確保して都市計画を廃止」がなくならないようにしてほしい。(G)
- ・外環ノ2の地上部の面積が知りたい。(G)

(5) 交通

関連する意見例

- ・外環ノ2を整備すると地区内の交通量が増えると思うが、それでも青梅街道や早稲田通りの交通量は減るのか。(C)
- ・外環ノ2は通行料が無料なので、これが整備された場合、外環本線より交通量が増えるのではないかと懸念する。(B)
- ・圏央道は都心から距離があり環状道路としての効果に疑問がある。外環ノ2が整備されると圏央道ではなく、外環ノ2の交通量が増えるのではないかと懸念する。(B)
- ・三鷹方面とつなぐ南北方面の幹線道路が少なく渋滞していることを、外環ノ2だけで解消しようとしていることを懸念している。周辺道路を立体交差にするなど改善の方が先決である。(C)

(6) 環境

関連する意見例

- ・地上部の外環ノ2によって地域が分断され、生活利便性や学区・コミュニティへの悪影響がある。また、周辺の生活道路への車の流入増加による特に通学時の子供たちの健康被害、交通事故)など、多くの不安がある。(A)
- ・外環ノ2に関しては両側に教育施設が多く、子供たちの動線の分断だけでなく、通過交通が生活道路に入り子供の健康被害や交通事故が心配である。(A)
- ・外環ノ2の予定地周辺には、幼稚園や学校が数多く存在するので、大気質など環境が悪化して子どもたちに影響するのではないかと心配である。(C)
- ・外環ノ2は桃井第四小学校や善福寺北児童館の近くを通るので、排ガスなど子どもたちへの空気の影響が心配。(C)
- ・都知事が「他人の家には土足で入らない」と言って外環本線は地下化された。外環ノ2が地上に整備されるとなると、外環本線が地下になって影響が低減すると期待したのに低減しない。大気や騒音への影響が心配だ。(C)
- ・街が緑豊かになることを期待している。外環ノ2の車道幅員を狭くし、道路わきに木を植えて欲しい。(E)

(7) まちづくり

関連する意見例

- ・外環ノ2については、道路機能は最小限度にして、残った部分を、街が運営管理する、地域住民が自由に使えるコミュニティ施設を作るスペースにして欲しい。(E)
- ・地上部の外環ノ2によって地域が分断され、生活利便性や学区・コミュニティへの悪影響がある。また、周辺の生活道路への車の流入増加による特に通学時の子供たちの健康被害、交通事故)など、多くの不安がある。(A)
- ・外環ノ2に関しては両側に教育施設が多く、子供たちの動線の分断だけでなく、通過交通が生活道路に入り子供の健康被害や交通事故が心配である。(A)
- ・外環ノ2により、学区の分断が懸念される。(E)
- ・地上部街路計画が残っているが、これが実行されると、町内が分断されるため、コミュニティが壊れる事を懸念する。(B)
- ・地上部街路計画は、数千世帯の立ち退きや生活環境の変化を伴うことを考えると、建設するメリットに疑問がある。もし実行するのであれば、他の環境整備に供すべき。(B)
- ・都知事が「他人の家には土足で入らない」と言って外環本線は地下化された。外環ノ2が地上に整備されるとなると、外環本線が地下になって影響が低減すると期待したのに低減しない。地域分断や立ち退きな

どのコミュニティの分断が心配だ。(C)

- ・外環ノ2が整備されると善福寺地域を分断し、通学の児童や、買い物のお母さん、地元の交流、通院するお年寄りなどの生活に大きな影響を与えるので心配だ。(C)
- ・幅員が40mと、外環ノ2の幅が広すぎるので、地域への影響も大きい。どのような道路となるのか心配である。(E)

(8) 安全・安心

関連する意見例

- ・外環ノ2に関しては両側に教育施設が多く、子供たちの動線の分断だけでなく、通過交通が生活道路に入り子供の健康被害や交通事故が心配である。(A)
- ・地上部の外環ノ2によって地域が分断され、生活利便性や学区・コミュニティへの悪影響がある。また、周辺の生活道路への車の流入増加による特に通学時の子供たちの健康被害、交通事故)など、多くの不安がある。(A)
- ・外環ノ2が整備されて交通量が増えれば、周辺の生活道路への交通が流入し、通学時の危険性が増加するのではないかと心配。また、知らない車が増えると犯罪の危険性も増加することも心配である。(C)
- ・外環ノ2が整備されると善福寺地域を分断し、通学の児童や、買い物のお母さん、地元の交流、通院するお年寄りなどの安全性に大きな影響を与えるので心配だ。(C)
- ・通学路に40m～60mの地上道(外環ノ2)が計画されているが、小学1年生が信号1回で渡れない。(D)
- ・外環ノ2の計画道路幅で高齢者、障がい者、子どもなどが渡れるのか心配。(D)

(9) 工事中

関連する意見例

- ・外環ノ2の予定地周辺には、幼稚園や学校が数多く存在するので、工事中の環境が悪化して子どもたちに影響するのではないかと、また、工事中の通学路の安全性が保たれるのかが心配である。(C)

(10) 用地・補償

関連する意見例

- ・外環ノ2が整備されることになると、外環ノ2の周辺住民も立ち退きが発生するのではないかと心配。(A)
- ・外環ノ2は、公園整備など地域にとってよい面もあるが、立ち退きを伴う事は問題。(B)
- ・杉並のこの地で生まれ育った人たちが立ち退くことを強制されてコミュニティが失われることが心配。またそうした退去者が抱える喪失感をケアする体制や移転補償などの説明が無いことが大きなストレスになっている。(A)
- ・外環ノ2を含め外環関連事業によって実際に立ち退き軒数がどれほど多くなるのか心配なので、説明して欲しい。(A)
- ・外環ノ2工事中に、近隣の家屋に問題が発生した場合の対応や補償はどのようになり、窓口はどこになるのか(国か都か)わかるようにしてほしい。(D)
- ・外環本線が地下化しても、外環ノ2の計画が残っている場合は、計画地内の人たちは立退きが必要になることが心配である。事業費も削減ではなくて、増加することになるのではないかと。(H)